

火災危険性を有するおそれのある物質等に関する調査検討会（令和元年度第3回）審議結果

1 審議者

（1）委員（敬省略、順不同）

田村 昌三（座長）、朝倉 浩一、新井 充、岩田 雄策、芝田 育也、鶴田 俊、三宅 淳巳、
八木 伊知郎

（2）オブザーバー

金地 隆志（経済産業省）、加藤 優奈（厚生労働省）

（3）事務局

渡辺 剛英、内藤 浩由、小島 正嗣、安田 哲朗

2 配布資料

（資料Ⅲ－1）第2回調査検討会議事要旨

（資料Ⅲ－2）火災危険性を有するおそれのある物質等に関する調査検討報告書（案）

（資料Ⅲ－3）「JIS規格に係る対応（案）」について

（資料Ⅲ－4）「臭素酸カリウムに係る対応（案）」について

3 審議内容

（1）火災危険性を有するおそれのある物質等に関する調査検討報告書（案）

【委 員】改正省令が施行されるまでの概略のスケジュールはどうか。

【事 務 局】令和2年4月上旬から5月上旬まで意見公募を実施し、同年5月下旬に公布し、同年12月1日に施行する予定である。

（2）「JIS規格に係る対応（案）」について

【委 員】改正省令等が施行されるまでの概略のスケジュールはどうか。

【事 務 局】令和2年4月上旬に公布し、同年5月1日に施行する予定である。

（3）「臭素酸カリウムに係る対応（案）」について

【委 員】現時点では臭素酸カリウムの代替物質として過酸化カルシウムがベターと考えられるが、引き続き検討することが望ましい。なお、過酸化カルシウムの粒度は $>150\mu\text{m}$ とあるが、粒度の幅の制限をしておく必要はないのか。できれば試験法に関して国連との整合性をとることが望ましい。国連での検討に関する情報を入手し、参考にとするとともに、日本でよい物質が見つければ、国連に提案することも考えられる。

【委 員】過酸化カルシウムを第一候補として検証を続けるのは妥当である。

【委員】標準物質である臭素酸カリウム（1：1）と過酸化カルシウム（4：1）の燃焼時間が、ほぼ等しくなったことから、提案にもあるように、粒度、純度、重量比等の違いを調べるのが望ましいと考える。また、臭素酸カリウムについても重量比等のデータを得て、過酸化カルシウムのデータと比較しても良い。なお、文献（災害の研究、Vol. 19）によると、重量比 4：1 または 1：1 の割合で、ほぼ燃焼速度が最大となるという記述があった。

【事務局】御意見のとおり、今回の調査で使用した過酸化カルシウムは、粒度が 150 μ m未満であったため、今後は粒度の幅を考慮する必要があると考えている。また、粒度のほか純度及び混合比率等も考慮しながら、現行の標準物質に合わせられるよう緻密に検討していくことが重要だと考える。

以上